

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床工学技士専攻科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	看護学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	通年	教室名	
担 当 教 員	木下 英人	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
コミュニケーションの技術やマナーを知り、医療職としての接し方を学ぶ。バイタルサインの技術を理解し、患者に必要な観察の方法を学ぶ。基本的な感染予防対策、針刺し事故対策を理解し、安全安楽を意識した行動が考える。医療安全の意義を知り、医療者の一員としてリスク感性を高める。チーム医療としての臨床工学技士の立場を理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 定期試験 70% 2. 出席と授業態度 30%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
わかるできる看護技術vol.1 基礎看護技術/照林社 その他授業時配布資料						
《授業外における学習方法》						
講義・演習後の復習を行うこと。						
《履修に当たっての留意点》						
多職種連携の基礎として医療職である看護師がどのようなことを大切に患者と関わっているのかその価値観や持っている技術内容を知るとともに、共に人に対する技術を提供する医療人としてのあり方について考えを深めて欲しい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護学概論を学ぶ意義および看護の定義、看護師の役割・機能、活動の場について述べることできる。	教科書 配布資料	講義後の復習をしておくこと。	
		各コマにおける授業予定	1. 看護学概論を学ぶ意義 2. 看護の定義、看護職の役割と機能 3. 看護職の活動の場			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護者の倫理綱領を通して、看護職がどのようなことを大切に看護にあたっているか述べることできる。	教科書 配布資料	講義後の復習をしておくこと。	
		各コマにおける授業予定	1. 看護者の倫理綱領と看護職			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	人に対する技術である看護の技術とはどのようなことが、臨床工学士に求められている技術との共通点・相違点を考えることできる。	教科書 配布資料	講義後の復習をしておくこと。	
		各コマにおける授業予定	1. 看護技術とは何か 2. 看護師に必要な基礎看護技術 3. 看護技術の原則			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護におけるコミュニケーションの特徴を述べることできる。	教科書 配布資料	講義後の復習をしておくこと。	
		各コマにおける授業予定	1. コミュニケーション技術(対人関係成立の技術) 2. コミュニケーション障害への対応			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護における観察の意味とその技術のあり方について述べることできる。	教科書 配布資料	講義後の復習をしておくこと。	
		各コマにおける授業予定	1. 観察の技術 (ヘルスアセスメント、バイタルサイン測定)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	バイタルサイン測定の目的とその方法について述べるができる。	教科書 配布資料	講義後の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	1. バイタルサイン測定の実際(脈拍、体温、血圧、呼吸など)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	感染予防に必要な考え方について述べるができる	教科書 配布資料	講義後の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	1. 感染予防の技術:感染予防の考え方と看護師の役割		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	スタンダード・プリコーションについて説明できる。ガウンテクニックや無菌操作の方法について述べるができる。	教科書 配布資料	講義後の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	1. スタンダード・プリコーション 2. ガウンテクニック 3. 無菌操作		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	安全・安楽な技術にどのようなものがあるか、その考え方について説明できる。	教科書 配布資料	講義後の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	1. 安全・安楽の技術と看護師の役割		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護の原則である安全・安楽を守るための技術について述べるができる。	教科書 配布資料	講義後の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	1. 療養環境の調整(室内環境調整、ベッドメイキング) 2. 苦痛の緩和、安楽確保の技術(体位保持、電法) 3. 安全確保の技術(転倒予防)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	創傷管理における看護師の役割とその方法について述べるができる。	教科書 配布資料	講義後の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	1. 診療補助技術;創傷管理(包帯法・ドレーン管理)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	安全で確実な与薬における看護師の役割とその方法について述べるができる。	教科書 配布資料	講義後の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	1. 診療補助技術:与薬(輸液ポンプの扱い含む)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護師が行う呼吸・循環を整える技術について述べるができる。	教科書 配布資料	講義後の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	1. 呼吸・循環を整える技術、救命救急処置技術(人工呼吸器、吸引、酸素吸入)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	術直後の患者の事例を通し、看護技術がどのように提供されるのか述べるができる。	教科書 配布資料	講義後の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	1. 様々な治療の場にある患者の看護(手術療法を受ける患者)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	少子超高齢化の中で多死社会を生きる医療人としてのあり方について考えることができる。	教科書 配布資料	講義後の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	1. 看取りの技術(人生の最終段階にある対象の看護を含む)		